

「With コロナ時代における未来アイデア」応募用紙

○応募者

| | |
|------------|--------------------|
| 氏名・法人名・団体名 | ピクシーダストテクノロジーズ株式会社 |
| (法人・団体の場合) | |
| メールアドレス | |
| 電話番号 | |

| | |
|--|--|
| 募集対象・応募資格適合への同意 | <input checked="" type="checkbox"/> 同意します |
| 暴力団関係者（暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号）に規定する暴力団をいう。） | <input checked="" type="checkbox"/> 該当しません |

○応募内容

| | |
|-----------------------------------|--|
| アイデアの部門を下記から1つ選んで丸（○）を記入してください。 | |
| <input type="checkbox"/> 未来デザイン部門 | <input checked="" type="checkbox"/> 未来テクノロジー部門 |

| | |
|-------|------------------------------|
| アイデア名 | 難聴者の社会的孤立を解消する新しいコミュニケーション技術 |
|-------|------------------------------|

| |
|---|
| 提案の概要（200字以内） |
| 難聴者の社会的な交流を増やすため、既存の補聴器が抱える課題を解決する全く新しいモバイルコミュニケーション技術の開発 |

| |
|---|
| 提案に当たっての現状・課題・背景 ※様式自由 |
| 上記技術は現在開発中であるが、将来の社会実装にあたっては、試作品を想定ユーザーに体験・評価してもらい、実際の使用環境における課題の洗い出しができる実証フィールドが必要になる。 |

| |
|---|
| 提案を実施することによる効果、提案の実現可能性や実現に当たっての課題 ※様式自由 |
| 上記技術が社会実装されれば、高齢者を中心にした難聴者の社会的孤立の解消や認知症発症リスクの低減につながるが、社会実装につながる想定ユーザーの協力を得た実証フィールドの確保が課題。 |

| |
|--|
| 提案の詳細 ※様式自由 |
| 難聴者は国内で千数百万人にも上ると言われるが、難聴故に会話によるコミュニケーションが減少してしまうことで認知機能が低下し、難聴者の認知症発症リスクは中程度難聴者で3倍、高度難聴者で5倍とも言われる。新型コロナウイルス感染症の拡大により、人と人とのつながりが希薄化する中、難聴者の社会的孤立が加速することが見込まれ、その解消は喫緊に解決すべき社会的課題と言える。そのため、難聴者の社会的な交流を増やすことを目的として、既存の補聴器では解消できない雑音耐性（周囲の騒音によって声がかき消される）等の課題を解決する全く新しいモバイルコミュニケーション技術を開発する。 |

※「提案の概要」以下の項目は、適宜記入欄を拡幅して構いません。

※様式自由となっている項目は、別ファイル（ワード又は PDF 形式）で提出していただいても構いません。ただし、本応募用紙と合わせて最大 20MB までです。